

中小企業振興会議 第3回地域商業の魅力と活力の再生検討部会 議事要旨

日 時	平成26年6月4日(水) 午後6時から午後8時まで
場 所	クリエイション・コア東大阪 南館3階 研修室C
出席者	○中小企業振興会議委員 中嶋部会長、太田委員、大西委員、角井委員、寺尾委員、平井委員、矢沢委員、脇田委員 ○アドバイザー 布施えびすバル実行委員会 元光実行委員長 近久会計 ○事務局 米谷部次長、出口課長、名部主査、尾崎主任
案 件	飲食店関係・まちなかバルと商業の連携
議事要旨	<p>開会</p> <p>○飲食店関係・まちなかバルと商業の連携</p> <p>1 中嶋部会長より、本日の議題として飲食店関係・まちなかバルと商業の連携についてどのような連携ができるのか、また行政がすべき支援策はどのようなものかを中心に議論していきたいとの説明あった。布施えびすバル実行委員会の元光実行委員長と近久会計にアドバイザーとして布施えびすバル開催までの苦勞、実施の効果や第2回目に向けての課題について説明していただいた後、意見交換を行った。</p> <p>2 布施えびすバルの開催までの流れと実施の効果、次回に向けての課題については以下のとおり</p> <p>「布施でバルをやろう」という話が出たのは一昨年秋頃であった。布施で飲食業をしておりますので、飲食店が中心となったイベントを何かやりたいという話は以前から度々話が出ていました。布施では今から4～5年前に「布施うまいもん市」を開催していました。それは、集約型の飲食イベントで、布施を中心に東大阪の中で比較的好いと言われていたお店10件から15件くらいに声を掛けて、布施の商店街内にある「街の駅クリアホールふせ」まで遠征して来ていただいて、屋台の形で多くの方に食べに来てもらいました。しかしながら、イベント会場のクリアホールの大きさの問題で採算が取れなかったことと、夜に営業されるお店に昼間に遠征して出店することが出店者にとって負担になっていたことが原因で、うまくいかなかった。集約型のイベントに変わるイベントを探していた時に、バルという話が出たのがきっかけであった。</p> <p>他の地域で開催されているバルを勉強しているうちに、単なる飲食イベントではなく、人と街とのつながり、小売業等との連携が複雑に絡み合う奥の深いイベントであると感じた。伊丹で開催された伊丹まちなかバルを視察した時、街並みの整備と並行してイベントが行われており、街に一体感があって街全体で動いている印象が強かった。しかし、布施は伊丹とは違った魅力があって、繁華街を中心に多くの飲食店が集約しており、布施に適した飲食店に特化したバルにしたいと思ったのが始まりです。参加店舗数は100店舗を目標にし、結果100店舗集めることができた。質として、布施えびすバルならばどの参加店に行ってもおいしいものが食べれるというイベントにすることが、他のエリアでやっているバルとの差別化になると考えています。</p> <p>昨年、1回目の時は、グルメイベントとしては、かなりいいものができたと思います。2回目の開催となる今年は、飲食店以外の方とも連携することをテーマに、ボランティアスタッフやいろいろな団体と連携して、バルが人と人、団体と団体をつなぐ接着剤のような役割となりうるような存在になればと思っています。</p> <p>布施は東大阪の一部のエリアで、東大阪市全体のことを代表して動くことができないので、どのように動けばいいのか悩ましいところがあります。連携する際にどのようなところに声を掛けていけばいいのか、また連携先となる団体等への声掛けについては、行政に手助けいただけたらと考えています。</p> <p>3 主な質疑は以下のとおり</p> <p>(委員) 布施えびすバルに来たお客さんはどこから来られたのか。 → (布施えびすバル実行委員会) 前回アンケートでは、東大阪市内が6割、大阪市内が2割、その他の大阪府下が8%、奈良県が3.5%、兵庫県が1.2%です。</p> <p>(委員) バルを2日間開催したり、日曜日に開催するとかはできませんか。 → (布施えびすバル実行委員会) 開催日を増やすことについては、参加店にかかる負担が大きいため1日だけにしてプレミアム感を提供しています。また、土曜日に開催するのは布施の飲食店が比較的遅くまで営業していることを知ってもらうために、翌日が休みとなる土曜日に開催しています。</p> <p>(委員) 仕事帰りのサラリーマンを対象にした金曜日の開催とかはどうか。 → (布施えびすバル実行委員会) 金曜日に開催しなかったのは、人が集まる時間帯が遅くなり、その結果イベント時間が短くなってしまい開催するメリットが小さくなってしまっているからです。</p> <p>(委員) 運営面でボランティア集めとかはどうでしたか。 → (布施えびすバル実行委員会) イベントと一緒に楽しむボランティアスタッフという経験がないので、知り合いの方に声を掛けて回って集めました。前回のボランティアスタッフの方が楽しんでもらえたら、第2回目以降も参加してもらえるのではないかと考えています。</p>

4 主な意見は以下のとおり

(委員) 布施のバルは立地上、店の間隔が近くていい。他から来た布施を知らない人達どうしが会話する様子を見ることができておもしろい。今年はだんじりの日に合わせて開催するので、だんじりを観てもらえていいと思う。

(委員) バルを開催している地域どうしで、バルのチケットを売りあったり、情報交換ができるといい。

(委員) 布施という立地からすれば、近鉄奈良線沿いの奈良県からの来場者の割合が少ないように思う。

(委員) 近鉄奈良線や阪神なんば線で、奈良と尼崎がつながっているので、奈良県や兵庫県からもお客さんが来てくれるといい。駅でチケットが販売できるといい。

(委員) 天神橋で開催されているバルは大阪市営地下鉄と連携してやっている。

(委員) 企業等に協力をお願いする時は、相手のメリットと考えてアプローチする必要があるのではないかな。

(委員) 若者層だけでなく、子供も楽しめるイベントだといい。

(委員) バルの開催の日には、大勢のお客さんが来られるので、飲食の合間に商店街で物を買ってもらえるように商店街の方が考えないといけない。

(委員) はじめ布施の商店街でバルを開催するには、飲食店だけでなく小売店等も入れて開催しないといけないと思っていたが、実行委員会ががんばってくれたので、布施にはおいしいものが安い値段で提供できるということをアピールできたと思う。

(委員) 満腹になったお客さんが使いきれなかったチケットについて、周辺から来られた方ならば、「あとバル」で利用できるが、奈良県などの遠方から来た人にはその時に消化できる「みやバル」を考えていけないといけない。チケットが使い切れなかったら、お客さんに満足感を感じてもらえなくなる。

(委員) 2019年ラグビーワールドカップが花園で開催されることが決まったら、大勢のお客さんをものように引き込むか考えていけないといけない。

5 意見まとめ

小売店、サービス業等と飲食店の連携は、現在のところ成果とまではいかないが「まちなかバル」という取り組みの中で連携の動きがあります。連携がうまくいくためには次の課題に取り組む必要があります。飲食店側では、商店街内の飲食店の参加が少なかった為、今後は危機感をもって取組んでもらう必要性がある。小売店側では、バルという集客イベントにあわせてどういったものを提供していくか考えないといけない。また運営面では、連携のパートナーとなってくれる連携先へのアプローチ方法やボランティアスタッフの募集なども検討しないといけない。

バルはどここの地域でも開催されており、バルの開催だけでは新鮮さがなく集客できない。その地域独自のプラスアルファを加える必要がある。飲食店と小売店、そしてそれ以外の様々な業種も巻き込んで連携していかないといけない。その連携を手助けできるのは、やはり行政ではないか。連携をとろうと思っても、誰に相談すればいいのかわからない場合に、行政が相談窓口となってコンサルタントの役割を果たすことができると感じる。また、他業種、他市地域などと連携する際には、行政がマグネット的な役割となって場を設ける、また連携の際のコンサルタント機能を発揮することで、連携を通じて街を活性化することができるのではないかと思います。

○次回の開催について

平成26年7月16日(水)午後2時(予定)に開催されることが決定された。

閉会

配布資料

資料1 飲食店と小売店等との連携について

資料2 函館西部地区バル街について

資料3 伊丹まちなかバルについて

資料4 (参考) 部会委員名簿